

わくわく倶楽部

江口グループ

第135号

平成30年10月発行

生涯を貫く自分の仕事を持つこと

江口グループ 代表取締役社長 江口 充



今 月も江口グループわくわく倶楽部のニュースレターを読んで頂きありがとうございます。10月秋真っ盛りです。私はスポーツの秋を満喫しています。今月は金沢マラソンに2年ぶりに出場します。昨年は残念ながら抽選に外れてしまい出場することは叶いませんでしたが、今年は見事に抽選に当たったので、金沢の街42.195kmを堪能していきたいなと思います。

田 中真澄さんの「臨終定年」という本を読みました。人生100年と言われるようになったこれからの日本を考えると、こういうことを考えなくてはいけないなと思います。

ア メリカと比べて、日本が大きく遅れをとっていることの一つに、老年学（ジェロントロジー）の研究とその成果の普及があります。人間の加齢と高齢者の生き方を研究する老年学が、アメリカでは35年前から盛んです。アメリカにはすでに500の大学で老年学が講義されており、老年学を専攻する学部が31あります。その結果、いろいろな関係機関で老年学を学んだ人々が数多く活躍し、老年学の研究成果を世に広めています。一方、日本の大学には、老年学を学ぶ学部・学科どころか、教科書すらありません。それだけに一般の私たち日本人は、老後の人生に対する最新の研究成果を知ることができず、老年学の専門家の指導も受けることができずにいます。したがって日本の多くの人は今だに古い老後観のまま、自分の老後を考えています。

最近の老年学は、高齢者とは英知を備えた貴重な社会的資源（社会的に役立つ人材）とみなし、高齢者も社会貢献をしながら、生き甲斐のある人生を送るべきであり、そういう日々を歩むことが高齢者の成功（サクセスマル・エイジング）である、という新しい概念を提唱するようになってきました。つまり、老後は趣味を生き甲斐にするのではなく、仕事を生き甲斐にしようという考え方が、老年学の基本になってきているということです。

し かし、日本では、この新しい概念で自分の老後の人生設計している人は、まだまだ少数です。ほとんどの高齢者やその予備軍である定年退職者は、社会的な貢献をするために、老後、自分はどのような仕事をなすべきかという、仕事に対する積極的な準備も認識もなく、ただ年金と退職金を当てにする社会保障制度依存の姿勢に終始しています。

かつてアメリカのスタンフォード大学が90歳を過ぎた高齢者に「自分の人生で何が悔やまれますか」という調査をしたところ、その回答の上位3項目は次の通りでした。

- ① もっとリスクを負えばよかった。
- ② もっと何かを学べばよかった。

③ 子供を育てる以外にももっと何かをすればよかった。

このアメリカの高齢者が抱く後悔の念は、これからの日本の高齢者にもそのまま当てはまると思います。なぜならば、日本の高齢者もだんだん後半の人生においても生き甲斐を求めるようになってきているからです。その生き甲斐とは何かについて、哲人はそれぞれの著書に書き残していますが、最も多い答えは、「生涯を貫く自分の仕事を持つ」ということです。自分の得手とする仕事（天職）に生涯従事できれば、結果的に、その行為は世のためになるわけですから、自分にとってはもちろんのこと、社会的にも素晴らしいことです。定年後、自分の仕事を持つことなく社会的に存在意義の乏しい生活を長く続けていると、次第に活力をなくしていきます。やはり人間はどんなに年を重ねても、自分が打ち込める仕事を持ち、社会的な責任を全うしてこそ、最も生き甲斐のある日々を享受できるというものです。このことは、あらゆる時代に当てはまる、不変の真理です。

し IFE SHIFT（ライフ・シフト）—100年時代の人生戦略—という本には、次のような一文があります。「人が長く生きるようになれば、職業生活に関する考え方も変わらざるをえない。人生が短かった時代は、「教育→仕事→引退」という古い3ステージの生き方で問題なかった。しかし、寿命が延びれば、2番目の「仕事」のステージが長くなる。引退年齢が70～80歳になり、長い期間働くようになるのである。人々は、生涯にもっと多くのステージを経験するようになるのだ。選択肢を狭めずに幅広い進路を検討する「エクスプローラー（探検者）」のステージを経験する人が出てくるだろう。自由と柔軟性を重んじて小さなビジネスを起こす「インディペンデント・プロデューサー（独立生産者）」のステージを生きる人も出るだろう。さまざまな仕事や活動に同時並行で携わる「ポートフォリオ・ワーカー」のステージを実践する人も出るかもしれない」

ま さに、田中真澄さんの言う、「生涯現役こそ最高の年金」であり、「人生は未完に終わるもよし 仕事の途中で天寿を全うする これが最高の人生」。生涯を貫く自分の仕事を持つ人生でありたいなと思います。

毎日ブログを更新しています。現場や会社のこと。好きなアルバのカレーのことなど書いています。こちらぜひご覧ください！

4代目のブログ
毎日更新中!!



4代目の江口グループ現場だより

土木・建築・造園・ドライアイス洗浄と江口グループの工事現場を紹介します。
皆さんのご近所で見かけた時はよろしくお願ひします(^_^)/



祝☆開通。一般国道416号線福井・石川県境道路開通式

9月9日に福井県勝山市において一般国道416号線福井・石川県境道路開通式が、石川県福井県の両知事、国会議員、県市議会議員、関係者の皆さんが出席し盛大に行われました。社長も施工業者の代表として参加させていただきました。一般国道416号線は、石川県小松市から福井県福井市を結ぶ道路です。これまで小松市新保町～福井県勝山市まで未開通でしたが、このたび工事が無事に終了し全線開通となりました。この道路は小松市から勝山市まで最短距離で結ぶルートです。山道がだいぶ続きますが、安全運転でドライブがてらにいかがですか。小松から行くと勝山の恐竜博物館が直ぐですよ！国道416号線の県境の工事現場は標高1000m近くと山の中の工事現場でした。この現場は山の中ということもあり、電機も水道も通っていない現場で大変でしたし、雨や雪の心配がある大変な現場でした。11月になると雪が降り始め、4月末くらいまでは工事がストップとなります。そして今年は大雪の影響で春先の工事のスタートがだいぶ遅れました。福井国体までに完成しー安心です。



開通式の様子



工事中の416号線



完成した416号線

江口グループ社員で海岸清掃ボランティアを行いました

9月7日の夕方会社のみinnで安宅海岸のゴミ拾いボランティアを行いました。前日から天気予報は雨…「カッパ着てもやります！」とのことやったけど、ゴミ拾いしているちょうど1時間だけは雨降らずにラッキーでした！台風通過後だったので、けっこうゴミ落ちていました。プラ、缶、ビンなどなど、あっという間にダンプいっぱいになりました！段取りしてくれたのは、若手社員のみinnです。若手社員のみinnの日頃の行いが良いからきっと雨が降らなかったんだらうね～連絡から準備、運営まで、しっかりとできるようになって頼もしい存在になってきました！これからは楽しみな若手チームです！



社員みんなで頑張りました



ダンプトラックいっぱいのゴミ

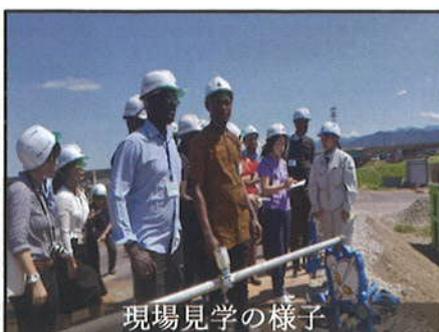


終了後は森田観光さんで打上げ

JICA研修事業。アフリカからの研修生



アフリカの皆さんと



現場見学の様子

9月5日にJICA青年研修事業でアフリカから来た青年研修生15名が江口組に企業視察にやってきました。お話した内容は、我が社の品質や安全管理のこと、社員教育、そしてICTのことを中心にお話しました。そして現場見学です。最後にお礼の言葉をいただき、会社や現場のことを褒めてもらい、母国へ戻ってこの経験を活かしたいと力強い言葉をいただき嬉しく思いました。江口組にとっていい経験でした。

アンケートに答えて金沢武士団の観戦チケットをゲットしよう

同封されているアンケートに答えると抽選でペア5組、合計10名の方に金沢武士団のホームゲーム観戦チケットをプレゼントします。今シーズンのホームゲームのどの試合でも観戦できるチケットです！



石川県のバスケットボールチーム



身近で見られる白熱したプレー



B1リーグ目指し応援しよう！

能美大橋の安全祈願祭&起工式が執り行われました

梯川は昔から頻発する水害に対して治水安全度の向上を図るために川幅を広げる「引堤工事」を行って安全度を向上させてきました。これからも更なる安全度向上に向け、白江大橋から上流の堤防整備を行なっていきます。その工事一環として、このたび梯川に架かる能美大橋の架替え工事が行われることになりました。それに先立ち、9月22日に能美大橋架替工事の安全祈願祭と起工式が国、県、市の議員のご来賓の方々、関係者の皆さん、地元の皆さんが参加して執り行われました。霊峰白山を源に地域を潤してきた梯川がより安全に、美しいまちづくりを進むことを願い、能美大橋の架替え工事を進めて行きます。江口組は橋台の新設工事を行います。工事も着工しました。皆さんのご支援とご協力をよろしくお願い致します。



起工式の様子



着工した工事の様子



能美大橋の現場メンバー

沢山の子どもたちの笑顔を見ることができた子ども現場見学会

今年も子ども現場見学会を開催しました。ちびっ子現場監督が集まって楽しい時間を過ごしました。梯川の現場と北陸新幹線の現場見学、ショベルカーなどの重機体験、セメント工作教室を行い、たくさんの笑顔に出会えた現場見学会でした。子どもたちのおかげで社員のみんなも笑顔で楽しい時間を過ごせました。ありがとうございます。来年も行いますよ～！！



カワイイ現場監督たち



北陸新幹線の現場見学



大人気の重機体験



セメント工作教室



子どもたちの笑顔



江口組の社員も楽しみました

スタッフ通信

こんにちは。秋も深まり、朝晩が肌寒く感じることはありませんね。今月も“運動会の楽しい思い出”です。



環境建設部 村上 昌洋



小6のとき、引込み思案だった私が、担任の先生が言った

「団長ってかっこいいよな〜!」の一言で、青団団長になりました。ちゅわい...笑



優勝しました☆
なつかしい...♡



工事部 中野 初音

運動会の思い出は、みんなで昼ご飯を食べたことです。外で友達と食べる弁当は、いつもと違い一段とおいしかったです。

畦地 翔葉

工事部 畦地 翔葉



運動会は小・中・高校とも副団長でした。(男子が団長) リレーは小学校の向かい選手じゃなかったの? 後はほぼ応援団長的な...! でもお祭りみたいで楽しかったです♡



総務部 喜多 小純

大王転がしで勢いつきすぎて大王と一緒に転がったこと... こわかった...



クリエイション江口 池田 理恵



お店を紹介、みんなに知ってほしいこと、ご意見・感想などがございましたらご連絡下さい!!



発行元

EGUCHI

江口グループ

株式会社 江口組

小松市殿町2丁目66番地
TEL.0761-24-1311(代)